

炭疽病及び輪斑病に抵抗性の 緑茶用晩生新品種「はるのなごり」

近年、チャの栽培管理においては環境負荷低減型茶園管理が主流となりつつあり、農薬の散布をできるだけ少なくするため、生産者サイドから病害虫抵抗性品種の育成が求められていました。宮崎県総合農業試験場茶業支場では、先に、クワシロカイガラムシ及び輪斑病に複合抵抗性の早生の緑茶用品種「ゆめかおり」を育成したところですが、今回、晩生でチャの主要病害に抵抗性のある緑茶用品種を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「はるのなごり」(旧系統名 宮崎 25 号) は、晩生で多収の「埼玉 1 号」を種子親、良質で炭疽病に抵抗性の「宮崎 8 号」を花粉親として、1986 年に交配された F₁ 実生群の中から選抜された品種です。
2. 「はるのなごり」は、耐病性が強く、輪斑病にはやや強、炭疽病には強の抵抗性を持っています。また、もち病およびクワシロカイガラムシに対しては中程度の抵抗性を有しています。
3. 「はるのなごり」は、一番茶の萌芽期および摘採期は、「やぶきた」より 4 日程度、「かなやみどり」より 1 日程度遅い晩生系統です。生葉収量は、「やぶきた」よりやや多く、また、製茶品質は「やぶきた」と同程度で「かなやみどり」より優れています。耐寒性は赤枯れにはやや強ですが、裂傷型凍害にはやや弱～中で、特にハードニングが進んでいない 11 月段階では弱いので、被害が発生しやすい幼木期においては肥培管理等に留意する必要があります。

表1 「はるのなごり」の栽培加工特性(育成地)

品種名	早晚性	樹 姿	萌芽期 (月日)	摘採期 (月日)	生葉収量(kg/10a)		耐寒性		製茶品質	
					一番茶	二番茶	赤枯れ	裂傷型凍害	一番茶	二番茶
はるのなごり	晩生	やや開張	4/5	5/1	314	366	やや強	やや弱～中	38.5	29.9
やぶきた	中生	やや直立	4/1	4/27	189	283	やや強	中	37.8	30.1
かなやみどり	晩生	開張	4/4	4/30	349	448	やや強	強	34.6	28.4

表2 「はるのなごり」の耐病虫性(育成地)

品種名	炭疽病		輪斑病検定			もち病		クワシロカイガラムシ	
	自然発生 程度	評 価	発病率 (%)	病斑径 (mm)	評 価	発病芽率 (%)	評 価	卵数/雌	評 価
はるのなごり	1.1	強	75	4.0	やや強	28	中	38.9	中
やぶきた	3.2	弱	100	15.8	弱	51	やや弱	—	弱～やや弱
ゆたかみどり	1.4	やや強	97	5.2	やや強	20	中	56.4	弱
さやまかおり	4.0	極弱	98	6.6	やや強	32	中	19.3	強
かなやみどり	1.8	やや強～中	91	3.9	やや強	17	やや強	—	弱

☆ 活用面での留意点

1. 本品種は晩生品種ですが、全国の茶産地で栽培が可能です。
2. 詳しいことは、宮崎県総合農業試験場茶業支場 (0983-27-0355) にお問合せください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)